

# 令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名				
柔道整復実技12				
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名	実務経験
柔道整復学科・夜間部	3年	1・2期	横山 靖	○
分野区分		教育課程		コマ数
専門分野	柔道整復実技	講義形式	実技	1
科目概要				
柔道整復師として身に付けておくべき骨折の整復・固定法を実技実習する。 臨床で多く見られる、鎖骨骨折・上腕骨外科頭骨骨折・上腕骨骨幹部骨折・橈骨遠位端骨折の鑑別判断、 整復法、固定法の習得できるよう授業を行う				
目標				
一般目標(GIO) 本講義を学習することで達成されるべき目標	柔道整復師として、骨折の初期処置、整復・固定に必要な技能を習得する。			
到達目標(SBO) 一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格基準)	患者対応。2、全身症状観察。3、患肢と損傷部位の状況把握。 4、助手へ誘指示。5、整復準備。6、整復誘手順。7、整復確認。 8、固定材料誘選択。9、患者へ誘説明。10、固定誘準備。 11、固定材料誘使用法。12、固定法。13、固定後確認。 等適切にできる。			
履修に必要な予備知識や技能				

各骨誘名称、関係する筋肉誘名称、損傷部位誘神経・血管誘名称を予備知識として覚えておくこと。

教科書・参考書
---------

柔道整復実技編改定第2版

受講上の注意
必ず白衣着用・指定サンダルを履くこと。ピアス・指輪・アクセサリ離身に着けないこと。爪は長く伸ばさないこと。 携帯電話・スマートフォンは必ず電源を切り、写真・ビデオ撮影禁止とする。実技中騒音を上げたり、他講義生に不愉快な思いをさせる行動・発言・態度 顯しないこと。指示に従えない講義退室を命じることがある。

成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (チャレンジテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合(%)							0

回数	授業内容	教科書	教材・持ち物
第1回	鎖骨骨折整復法①	P120～125	固定具・包帯 その他
第2回	鎖骨骨折整復法②	P120～125	固定具・包帯 その他
第3回	鎖骨骨折固定法①	P120～125	固定具・包帯 その他
第4回	鎖骨骨折固定法②	P120～125	固定具・包帯 その他
第5回	上腕骨外科頭骨骨折整復法①	P134～142	固定具・包帯 その他
第6回	上腕骨外科頭骨骨折整復法②	P134～142	固定具・包帯 その他
第7回	上腕骨外科頭骨骨折整復法③	P134～142	固定具・包帯 その他
第8回	上腕骨骨幹部骨折固定法①	P145～150	固定具・包帯 その他
第9回	上腕骨骨幹部骨折固定法②	P145～150	固定具・包帯 その他
第10回	上腕骨骨幹部骨折固定法③	P145～150	固定具・包帯 その他
第11回	上腕骨骨幹部骨折固定法④	P145～150	固定具・包帯 その他
第12回	コーレス骨折整復法①	P152～155	固定具・包帯 その他
第13回	コーレス骨折整復法②	P152～155	固定具・包帯 その他
第14回	コーレス骨折整復法③	P152～155	固定具・包帯 その他
第15回	コーレス骨折整復法④	P152～155	固定具・包帯 その他
第16回	コーレス骨折固定法①	P152～155	固定具・包帯 その他
第17回	コーレス骨折固定法②	P152～155	固定具・包帯 その他
第18回	総復習実技		固定具・包帯 その他
第19回	実技試験①		固定具・包帯 その他
第20回	実技試験②		固定具・包帯 その他

実務経験と本講義との関連について  
接骨院6年スポーツ整形外科4年勤務、その後開業。